

土木学会四国支部「土木紀行」No.74（香川県）

～庵治石の採石場～

世界ブランド石として名高い「庵治石」は、香川県高松市北東部の庵治町から産出される花崗岩のなかでも、特に目の細かい石のみが庵治石と呼ばれます。

庵治石は、日本三大花崗岩の一つとしても知られおり、現在は世界でも花崗岩のダイヤと呼ばれて高く評価されている石材です。きめ細かな地肌であるがゆえに風化に強く、磨けば磨くほど艶を増していきます。正式名称は「黒雲母細粒花崗閃緑岩」です。主成分は石英と長石、そこに少しの黒雲母が含まれているため、庵治石には「フ（斑）」と呼ばれる珍しい表情が現れてきます。石材という観点から花崗岩は細目（こまめ）、中目（ちゅうめ）、荒目（あらめ）と分類され、庵治石は細目と中目に分類されており、きめ細かな模様の細目（こまめ）になるほど貴重品として扱われています。また、水晶に近い硬度を持つことも庵治石の特徴です。200年は彫られた字が崩れたり、赤茶色に変色したり、艶が無くなったりしないといわれているのもこの硬さのおかげです。また、ひとつひとつの結晶が小さく、緻密であることから他の花崗岩とは比較にならないほど細かな細工を施すことが可能です。庵治石は丈夫で美しく、文字や模様がいつまでも崩れたり変質しないと言われるゆえんです。

ここで「斑」とは、よく研磨した石表面に黒雲母が特に緻密に入り、「指先で押さえたような湿り気または潤いを与えたような」まだら模様に濃淡が出ることで、斑が浮くとは石の表面が二重の縞模様（かすりもよう）のように見えることをいいます。この現象は世界の石材の中でも他に類がないとされており、庵治石特有の現象とされています。この希少性、特質から、石材の単価としては世界一と評価されています。

庵治石の年間産出量は約30万トン（2003年現在）であり、その内「墓石、灯籠、彫刻材等」として製品化される量はわずか1%（3,000トン）といわれています。他のものは、建築用の土台や庭石、築石、捨石（埋め立て等）などに使われています。



写真1. 五剣山の採石場の様子



写真2. 墓石の加工の様子



写真3. 石あかりロードの様子

最近では墓石として製品化されなかった庵治石を使ったイベントとして「むれ源平石あかりロード」が毎年夏に開催されています。「むれ源平石あかりロード」はことでん八栗駅から、扇の的に向かって弓を放った、源平史跡・駒立岩まで約1Kmに渡って200個以上の石あかりが街道を幻想的に彩っています。

私は庵治町で生まれ育ち、庵治石はとても身近な存在です。これまで、庵治石といえば墓石というイメージが強くなじみが薄かったのですが、石材加工工場の若い石工さん達を中心となって、芸術性の高い灯籠や彫刻等の様々な石のアートを創出して、町の活性化にもつなげています。

皆様も是非、庵治石をご覧になって、また手に触れてみて下さい。きっと庵治石の素晴らしさを実感して頂けることと思います。もうひとつ、庵治町の自慢がありました。2003年上映の「世界の中心で愛をさけぶ」の映画のロケ地でもあります。

参考資料：

<http://www.ajistone.com/about/index.html> 庵治石について

<http://www.wel-shikoku.gr.jp/welcome/shikoku/look/road/main.htm> むれ源平石あかりロード

<http://www.ajistone.com/about/character.html> 庵治石の特性

香川大学工学部安全システム建設工学科4年 山本 有咲

土木学会四国支部「土木紀行」 <http://doboku7.sakura.ne.jp/kikou/kikou.htm>

土木学会四国支部 <http://www.jsce7.jp/>